



彫刻

森川 浩さん(53)
(釧路町)

釧路新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□上□

と同じことだと、今ごろになって分かってきた」と言う。

作品に悩んだ時期も

また自分らしい作品をどう作り上げていくか悩んだ時期があった。「その結果、木の素材を扱うようになって、創造性が感じられる作品ができ、会友に推挙された」と振り返

方。死ぬ間際まで作品を作り続けられたら」と願っている。「全道展の多くの仲間、そして釧路の仲間を支えられて今がある。釧路の彫刻家として今後もより一層努力を積み重ねていきたい」と決意を新たにしている。

学生時代に先輩が所属する彫塑研究室で塑造彫刻の迫力

で会友に推挙され、現在は全道展釧路地区展実行委員会事

財団法人釧路新郷土芸術振興基金(春日井茂理事長)

は2009年度第38回「釧路新郷土芸術賞」の受賞者を決定した。同芸術賞は、今後さらに活躍が期待される地元芸術家に贈られており、今年度の受賞者は彫刻の森川浩さん(53)と釧路町の日本画の上野幾子さん(49)と、日本舞踊の花柳寿芳貴さん(37)と釧路市の3人。受賞者の横顔を

作品は自分そのもの

に魅せられ、釧路市立美原小学校教頭を務める現在も制作を続けている。教職員美術展彫塑の部特選受賞を機に斉藤一明さん(故人、第1回釧路新郷土芸術賞受賞)の指導を受けながら制作し、1984年の全道展に初出品した。翌年の40回展で初入選し、

務局長を務めている。若いころに一度だけ出品しなかった年があり、中学校時代の恩師から「自分への甘えだ」と厳しくしかられた。その時、「どんなに忙しくても作り続ける」と心に誓った。「自分への甘えと言われたことは、生きることから目を背けている

る。「自分の中に取り入れられたものがどんどん凝縮され、それをイメージとして心の中で再構築する。その中に一つの形が生み出される」と今の制作スタイルを語る。「作品は自分そのもの。心に蓄えられたものを形に練り上げていくことがぼくの生き

紹介する。